

豊岡市出石町

鳥居遺跡

—円山川激甚災害特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 24（2012）年 3 月

兵庫県教育委員会



鳥居遺跡遠景（東から）



現在の鳥居遺跡（2011年12月撮影）



破鏡



出土土器

例　　言

1. 本書は兵庫県豊岡市出石町鳥居に所在する鳥居遺跡の発掘調査報告書である。兵庫県文化財調査報告の第423冊にあたる。
2. 発掘調査は鳥居地区河道掘削工事に伴うものである。国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所の依頼を受けて、兵庫県教育委員会が調査主体となって調査した。
3. 発掘調査は、平成18年度に兵庫県教育委員会が実施し、同埋蔵文化財調査事務所（現兵庫県立考古博物館埋蔵文化財調査部）種定淳介・鈴木敬二・小川弦太が担当した。
4. 遺構の実測は、調査員が行った。遺構の製図及び遺物の実測・製図は兵庫県立考古博物館埋蔵文化財調査部嘱託員が行った。
5. 写真は遺構を調査員が撮影し、遺物については（株）地域文化財研究所に委託した。
6. 本書の挿図第2図「周辺の遺跡」は、国土地理院発行の1/25,000地形図「出石」、「江原」、「豊岡」、「須田」を使用した。
7. 本書の執筆は主に小川が行い、第2章は長濱誠司、第3章第2節は村上泰樹、杉村明美、小川で行い、第3節は別府大学に分析を依頼し、その報告を掲載している。編集は嘱託職員杉村明美の協力を得て小川が行った。
8. 調査で出土した遺物・写真・図版等の資料は兵庫県立考古博物館および魚住分館（明石市魚住町清水630-1）において保管している。

凡　　例

1. 遺物は種類ごとに通し番号を付いているが、石製品にはSを金属器にはMを冠し、土器との区別を行っている。
2. 土器は種別によって断面の表現を変え、須恵器は黒塗り、土師器は白抜き、黒色土器は網掛け（濃）、瓦質土器は砂目、陶磁器は網掛け（薄）で示している。

目 次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理等作業の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	6
第1節 調査の方法	6
第2節 遺構と遺物	8
第3節 兵庫県豊岡市出石町の鳥居遺跡から出土した鏡片の鉛同位体比	22
第4章 総括	28

挿図目次

第1図 遺跡の位置	3	第14図 出土土器 (10)	17
第2図 周辺の遺跡	5	第15図 出土土器 (11)	17
第3図 調査位置図	6	第16図 出土土器 (12)	18
第4図 調査範囲及び土器出土位置図	7	第17図 出土土器 (13)	19
第5図 出土土器 (1)	8	第18図 出土石製品	20
第6図 出土土器 (2)	9	第19図 破 鏡	21
第7図 出土土器 (3)	10	第20図 鉛同位体比測定結果	25
第8図 出土土器 (4)	11	第21図 鉛同位体比測定結果	25
第9図 出土土器 (5)	12	第22図 広形銅矛・銅戈との比較	26
第10図 出土土器 (6)	13	第23図 広形銅矛・銅戈との比較	26
第11図 出土土器 (7)	14	第24図 仿製鏡との比較	27
第12図 出土土器 (8)	15	第25図 仿製鏡との比較	27
第13図 出土土器 (9)	16		

表 目 次

第1表 化学組成測定結果	24	第4表 遺物観察表2	30
第2表 鉛同位体比測定結果	24	第5表 遺物観察表3	31
第3表 遺物観察表1	29	第6表 遺物観察表4	32

写真図版目次

卷頭カラー図版 1 烏居遺跡遠景（東から）	写真図版 9 土器 48・60・63 出土状況
現在の烏居遺跡（2011年12月撮影）	土器出土状況（北西から）
卷頭カラー図版 2 破 鏡	写真図版 10 現地説明会
出土土器	現地説明会
写真図版 1 烏居遺跡遠景（北から）	小坂小学校5年生見学
烏居遺跡遠景（東から）	写真図版 11 出土土器（1）
写真図版 2 調査区遠景（北東から）	写真図版 12 出土土器（2）
調査区近景（南東から）	写真図版 13 出土土器（3）
写真図版 3 調査区近景（北西から）	写真図版 14 出土土器（4）
調査状況（東から）	写真図版 15 出土土器（5）
写真図版 4 調査状況（北西から）	写真図版 16 出土土器（6）
土器 5・42・47 出土状況（北東から）	写真図版 17 出土土器（7）
写真図版 5 土器 42 出土状況（北東から）	写真図版 18 出土土器（8）
土器 42 出土状況（北東から）	写真図版 19 出土土器（9）
土器 5・47 出土状況（南東から）	写真図版 20 出土土器（10）
写真図版 6 土器 47 出土状況（北東から）	写真図版 21 出土土器（11）
土器 11 出土状況	写真図版 22 出土土器（12）
土器 16 出土状況	写真図版 23 出土土器（13）
写真図版 7 土器 22 出土状況（北東から）	写真図版 24 出土土器（14）
土器 30 出土状況（南西から）	写真図版 25 出土土器（15）
土器 33 出土状況（南東から）	写真図版 26 出土土器（16）
写真図版 8 土器 38 出土状況（北東から）	写真図版 27 出土土器（17）
土器出土状況	写真図版 28 出土石製品
土器 52 出土状況（南東から）	写真図版 29 破 鏡

第1章 調査の経緯

第1節 調査にいたる経緯

平成16年10月20日、近畿地方に上陸した台風23号は、円山川流域に豪雨をもたらした。円山川、出石川の堤防を越えた濁流は豊岡市街地に破壊的な被害を与えた。

国土交通省は復旧と将来の水害に備える「緊急治水対策」に、5年間の河川激甚災害対策特別緊急事業（滋特事業）を適用し、10年間で約900億円を投じる事業が開始された。

国の緊急治水対策は三時期に分かれる。第一期は平成17年6月まで。堤防の復旧及び、堤防の高さを計画高水位からプラス50cmの余裕高分に足りない区間をかさ上げする工事である。第二期は平成21年度まで。洪水時の流量を増やし水位を下げるため、川底や河川敷を掘る河道掘削である。また、築堤、橋の架け替え、排水ポンプの増設なども行われた。第三期は平成27年度まで、周辺遊水地の整備を行う。

これら事業の中、平成18年度より出石川において河道掘削工事が開始され、その施工中に河床付近から土器や磁器などが出土した。このことの報告を受けた国土交通省は県教育委員会へ直ちに連絡を行い、県教育委員会は専門職員の派遣を行った。その結果、掘削工事現場に埋蔵文化財が存在することが明らかとなった。このため、平成19年2月26日付け国近整費調第66号で依頼を受け発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘作業の経過

調査は土器発見の連絡を受けて実施された。そのため、分布調査や確認調査は行われていない。

本発掘調査

遺跡調査番号：2006174

調査担当者：種庭淳介・鈴木敬二・小川弦太

調査期間：平成19年2月28日～3月7日

調査面積：150m²

河床掘削工事中に完形に近い土器が出土した。国土交通省は直ちに工事を一時中止し、兵庫県教育委員会へ連絡を行った。教育委員会が現地の状況を確認したところ、河床に堆積する砂層中に遺物が存在することが判明した。そのため河床掘削工事と併行して調査を行うことになった。調査は、すべて人力で掘削を行い、写真撮影によって出土状況を記録した。調査の結果、遺構は存在しなかったが、破鏡、弥生土器、庄内併行期の土器、須恵器、土師器、出石焼等が出土した。

第3節 整理等作業の経過

出土遺物の洗浄、ネーミングは魚住分館で実施し、報告書作製に伴う本格的な整理作業（遺物実測、復元、トレース、図版作製など）は兵庫県立考古博物館で実施した。

平成22年度

遺物の洗浄、ネーミング、復元、実測を行った。

整理保存課 岡田章一・山本誠・岡本一秀

嘱託員

A作業：眞子ふさ子・島村順子・三好綾子・小野潤子・奥野政子・荒木由美子・藤池かづさ・

荻野麻衣・藤尾裕子・宮野正子・又江立子

B作業：杉村（旧姓：塙本）明美・岡田美穂・高橋朋子

平成23年度

トレース、遺構・遺物図版作製、遺物写真撮影、写真図版作製などの報告書編集作業を行った。

整理保存課 山本誠・深江秀恵・岡本一秀

嘱託員

B作業：杉村明美・古谷章子・八木和子・友久伸子・佐伯純子

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

鳥居遺跡が立地する豊岡市出石町鳥居は旧但馬国出石郡出石に属する。豊岡市の東部に位置し、北は京都府久美浜町と接する。出石町は平成15年4月に豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、但東町と合併し豊岡市の一部となったが、但馬6万石、仙石氏の城下町として栄えたところである。現在でも但馬の小京都として名高く、当時の雰囲気を残した町には多くの観光客が訪れている。

出石町は周囲を200～800m級の山地に囲まれ、その面積は町域の1/3近くを占める。山地の間をぬうように円山川支流の出石川が町域を貫流する。出石川は流長35.4Km、豊岡市但東町小坂に源を発し、出石盆地を経て豊岡市伏で円山川と合流し日本海は津居山湾へと注ぐ。鳥居遺跡から日本海までは、川沿いに約22Kmある。円山川下流域には但馬最大の豊岡盆地が広がる。かつてこの盆地は入り江であったと考えられ、現在でも海拔は4～5mと非常に低い。



第1図 遺跡の位置

第2節 歴史的環境

鳥居遺跡の地名である「鳥居」は出石神社の鳥居があったことに由来するとの伝承がある。出石神社は、鳥居遺跡の真東約0.8Kmの地点にある。出石神社の祭神は新羅からの渡来人アメノヒボコであるが、アメノヒボコは伝説上の人物である。しかし、近年の考古学的研究により但馬地域と朝鮮半島との交流が明らかにされ、渡来人集団を象徴化したものがアメノヒボコであると考えられている。神社は但馬国一ノ宮であり出石が古来より但馬の伝統的な中心地であったことを示している。

旧石器・縄文時代

旧石器の遺跡は但馬の高原地域を中心に多数確認されているが、出石町周辺では確認されていない。縄文時代では、砂入遺跡で前期の土坑が確認されている。また、出石神社付近では土器・石器が採集されている。

弥生時代

集落は確認されていないが、持狭遺跡群から前期までさかのぼる土器が出土している。宮内黒田遺

跡、出石神社境内遺跡、宮内遺跡において弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物が多量に出土している。この時期の墳墓は半坂峠墳墓群、御屋敷遺跡、田多地引谷墳墓群、入佐山墳墓群などがある。これらの墳墓は丘陵上に築造されている。

古墳時代

森尾古墳は古墳時代初頭を代表する古墳であり、「口始元年」銘の三角縁神獣鏡が出土している。田多地引谷の墳墓からは珠文鏡や五銖銭、鉄製品など豊富な副葬品が出土している。茶臼山古墳は径40m以上の大型円墳であり埴輪を有する。平野や出石川周辺の丘陵尾根上には小規模な古墳が多数築造されている。カヤガ谷古墳群は堅穴系横口式石室という特異な形態をもつ。この時期も集落については不明な点が多いが、入佐川遺跡では前期の土器が出土し、掘立建物も検出され、至近に集落の存在が考えられる。

古代

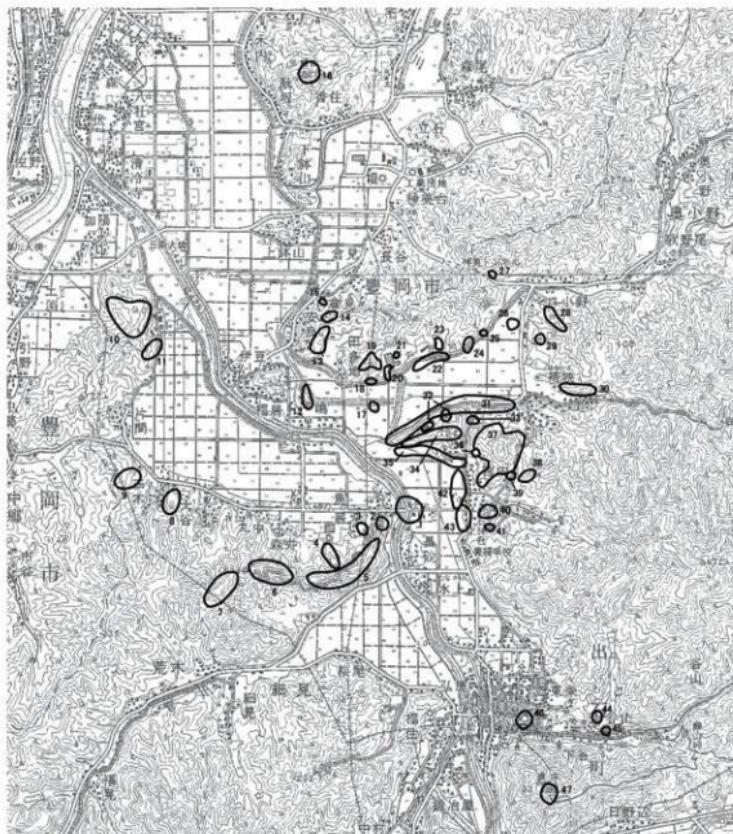
但馬国府の推定地とされる袴狹遺跡群のうち、砂入遺跡、荒木遺跡、袴狹遺跡、入佐川遺跡からは7世紀末～9世紀の建物跡などが検出されている。また袴狹遺跡からは木簡や墨書き土器、石器や帶金具、銅印、人形や畜串をはじめとする祭祀具など官衙的色彩の強い遺物が多量に出土している。出石郡が但馬の中心地であった時期である。

中世

この時期の出石を特色づけるものは守護大名の山名氏である。山名氏は上野国山名郷（群馬県高崎市）を本拠としていたが、1344年に山名時氏が南朝の拠点であった三間山城を攻略し居城とした。これが山名氏の但馬支配の端緒となる。その後但馬に勢力を伸ばして15世紀末に但馬の支配強化のために下向する。この時期に山名氏は守護所を此隅山城とその山麓に移し16世紀後半まで但馬支配の本拠地となる。此隅山城山麓には守護の館を中心とし上級武士の屋敷、寺院が配置されさらにその外側に市場が形成される。宮内堀脇遺跡では守護所の西側について調査し、低湿地を造成して堀や土壘に囲まれた武家屋敷群が造られていることが明らかとなった。此隅山城北麓の袴狹遺跡では16世紀後半の三間堂が検出され、宮内堀脇遺跡出土の位牌に記された人物と同一人物の名が記された卒塔婆が出土し、守護所に住む人々の信仰の場であった。このように此隅山城山麓の状況は考古学的調査により明らかにされつつある。

参考文献

兵庫県教育委員会 2011 『鳥居城跡』



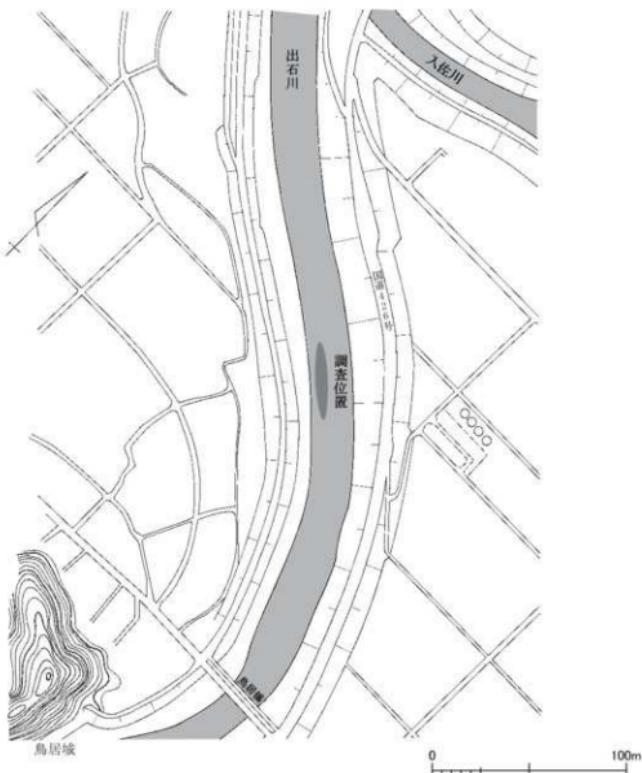
- | | | | |
|-------------|--------------|---------------|------------|
| 1. 鳥居城跡 | 13. 田多地古墳群 | 25. カヤガ谷横穴 | 37. 此瀬山城跡 |
| 2. 鳥居遺跡 | 14. 安良吉古墳 | 26. 荒木遺跡 | 38. 上坂古墳群 |
| 3. 東谷古墳 | 15. 下安良城山古墳 | 27. 麦谷2号墳 | 39. 上坂遺跡 |
| 4. 尾崎古墳群 | 16. 三閑山城 | 28. 岩谷古墳群 | 40. 出石神社 |
| 5. 鳥居山頂古墳群 | 17. 嶋遺跡 | 29. 小野小学校裏山遺跡 | 41. 宮内遺跡 |
| 6. 森井山頂古墳群 | 18. 田多地小谷道路 | 30. 新宮谷古墳群 | 42. 宮内福島道路 |
| 7. 大谷山頂古墳群 | 19. 田多地小谷古墳群 | 31. 祇狹道路 | 43. 宮内黒田道路 |
| 8. 黒谷古墳群 | 20. 田多地引谷墳墓群 | 32. 大谷墳墓群 | 44. 茶臼山古墳 |
| 9. 土田古墳群 | 21. 中通古墳 | 33. 下坂横穴群 | 45. 丸山古墳 |
| 10. 草山古墳群 | 22. 砂入道路 | 34. 坪井遺跡 | 46. 出石城 |
| 11. 土屋ヶ鼻古墳群 | 23. カヤガ谷古墳群 | 35. 入佐川道路 | 47. 有子山城 |
| 12. 虫生山道路 | 24. カヤガ谷墳墓群 | 36. 御屋敷道路 | |

第2図 周辺の遺跡

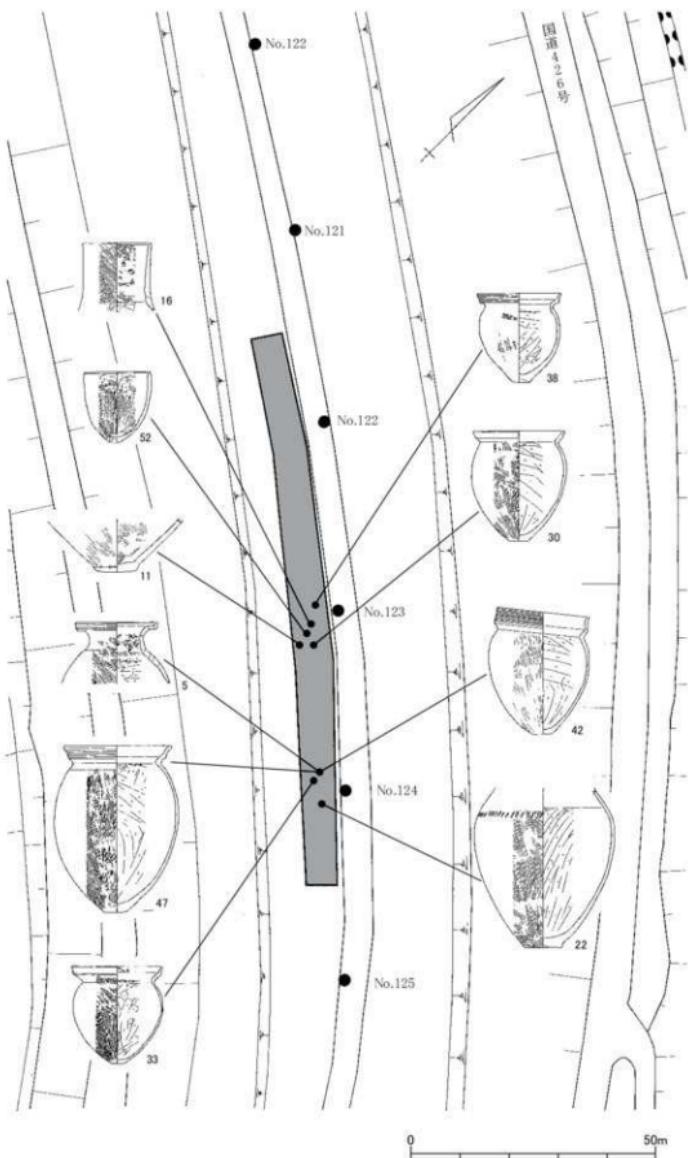
第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査場所は出石川の川底である。工事は、23号台風によって堆積した土砂を取り除き、左岸に新たに護岸を整備するものであった。大型土嚢を川の中央に積み重ね、川幅の半分を堰きとめた状態で護岸工事を行っており、調査地は川のほぼ中央部分である。遺物が確認されたのは川底に堆積した混じりけのない細砂～中砂層であった。施工地内に拡がるこの砂層の範囲を確定したのち、すべて人力により掘削し、調査を行った。



第3図 調査位置図



第4図 調査範囲及び土器出土位置図

第2節 遺構と遺物

川底の調査であり、遺構は検出されなかった。遺物について次に述べる。

弥生土器（第5～12図・写真図版11～21）

1は水差の把手挿入部の破片である。体部外面は縦ハケの後に、直線文と波状文を施す。内面は横ハケで仕上げる。

2は壺片である。体部外面には直線文、斜格子文を施す。内面は横ハケで仕上げる。

3は甕である。口縁部をなだらかに外反し、端部を丸く仕上げる。内外面ともに煤が多く付着する。

4は甕である。口縁部は水平近くまで外反し、端部に面を持つ。体部外面には縦ハケを施す。

これらの土器は全て弥生時代中期以前のものである。

5～8は壺であり、5～7は口縁部に擬凹線を施す。また、6の口縁部は上下に拡張し擬凹線を施した後、3箇所に2個一対の円形浮文を貼り付ける。

9・10は複合口縁の甕である。9は口縁部の形態、10は体部外面に波状文を施すなど、山陰系の特徴を持つ。

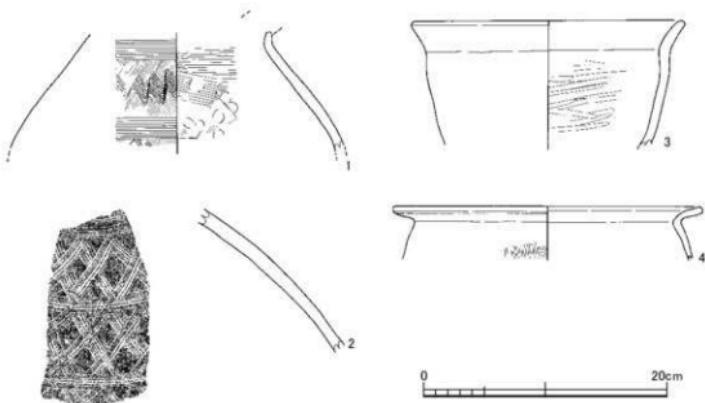
11～15は土器の底部である。11と13は外面にミガキ、12、14、15はハケを施す。11は底部外面に「十」の記号文が線刻され、15は工具の痕跡が残る。

16は直口壺である。口縁部はほぼ垂直にのび、体部となだらかにつながる。内外面ともハケ調整を施す。

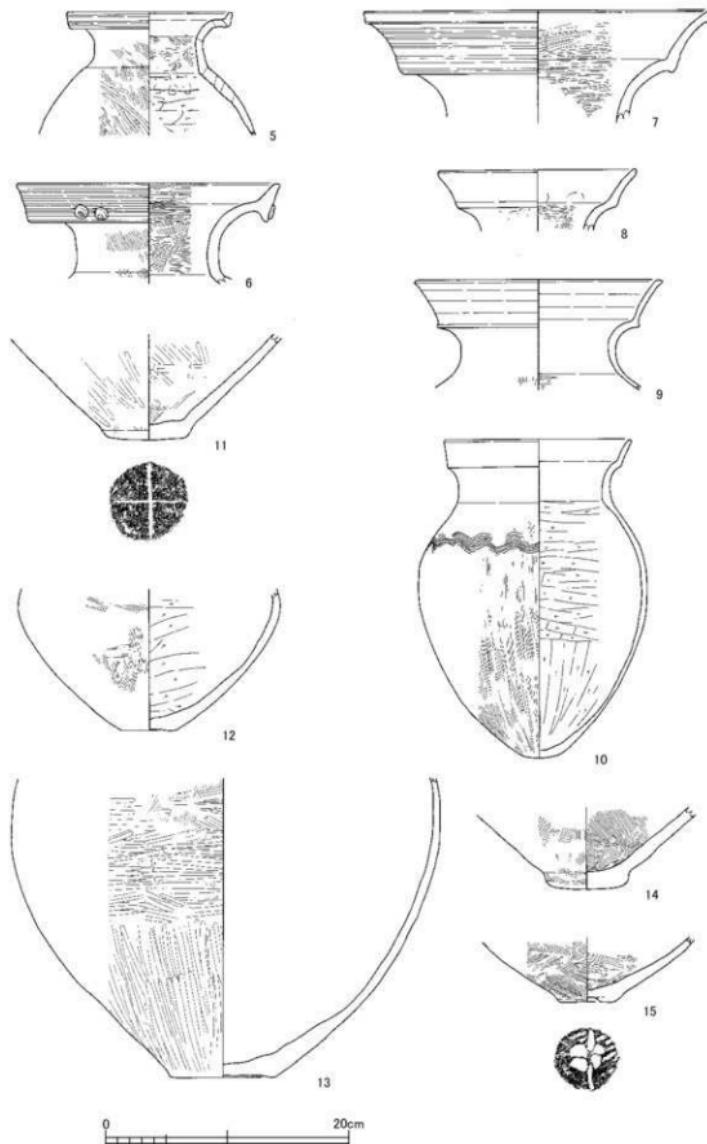
17、18、22は甕である。外面はハケ、内面はケズリの調整を施す。22は底部付近外面にタタキを行う。

18は端部を上方につまみあげる壺で、底部付近に穿孔が行われ、22は肩部付近に刻み目の文様を施す。

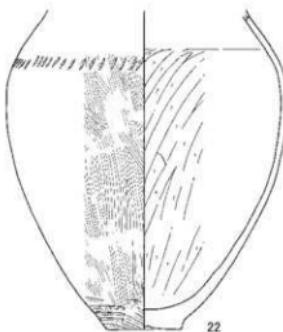
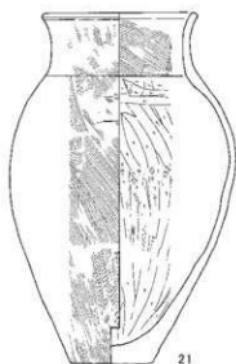
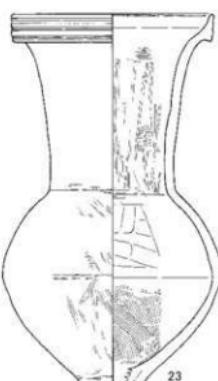
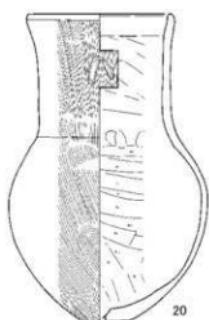
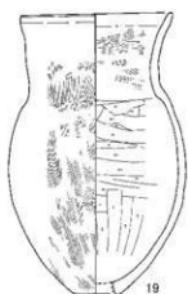
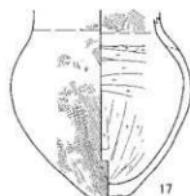
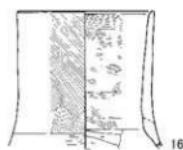
19、21は短頸甕である。19の体部は長胴型、21は体上部に最大径がくる。いずれも外面はハケ、内面は口頭部をハケ、体部にケズリの調整を施す。



第5図 出土土器（1）

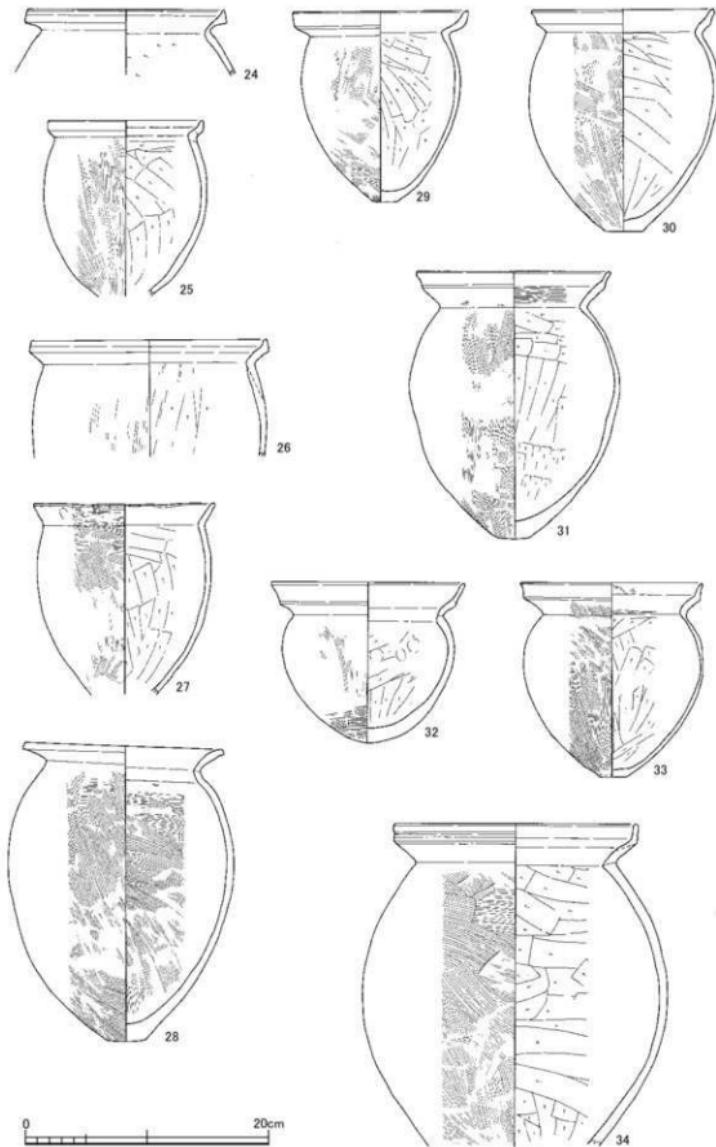


第6図 出土土器 (2)



0 20cm

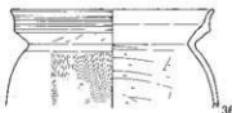
第7図 出土土器 (3)



第8図 出土土器 (4)



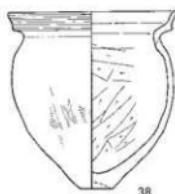
35



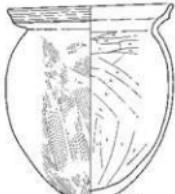
36



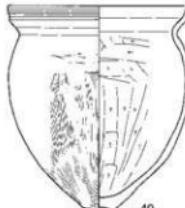
37



38



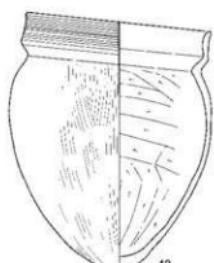
39



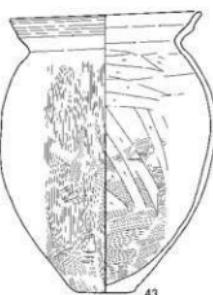
40



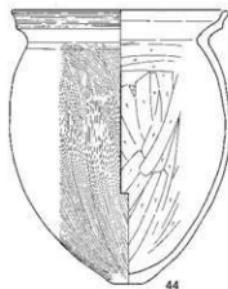
41



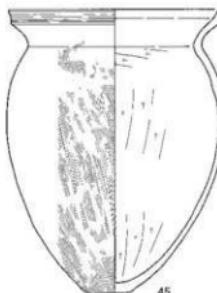
42



43



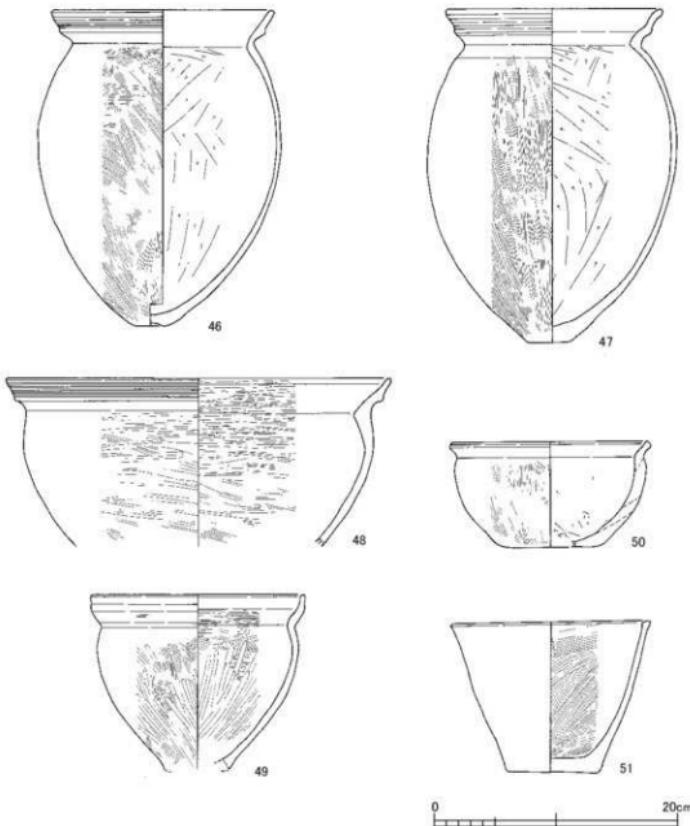
44



45



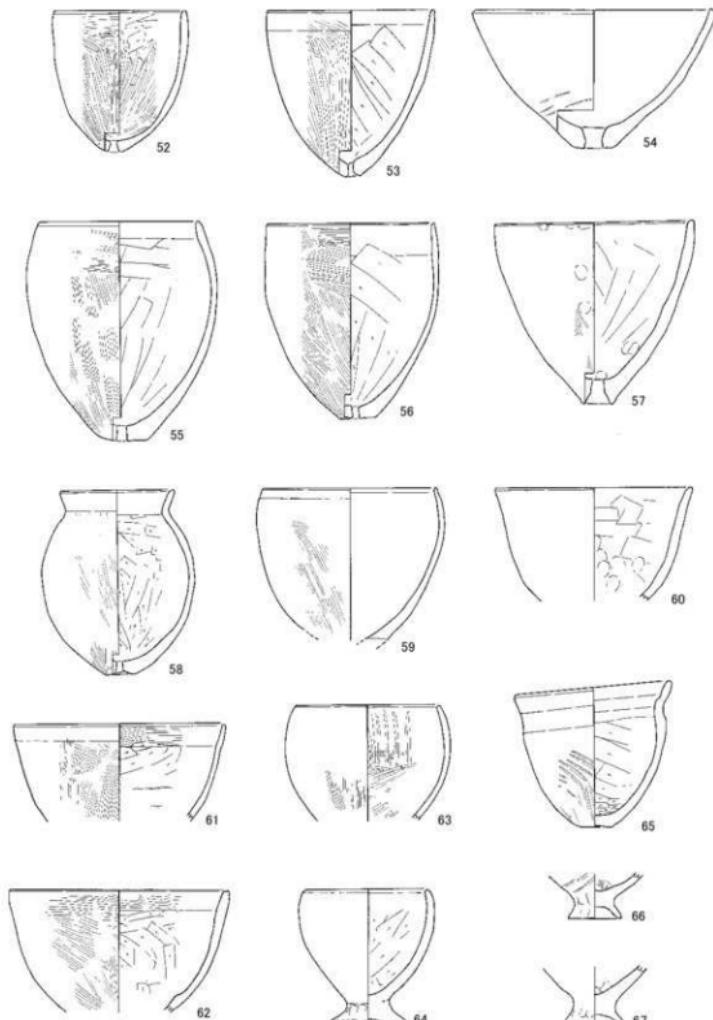
第9図 出土土器 (5)



第10図 出土土器 (6)

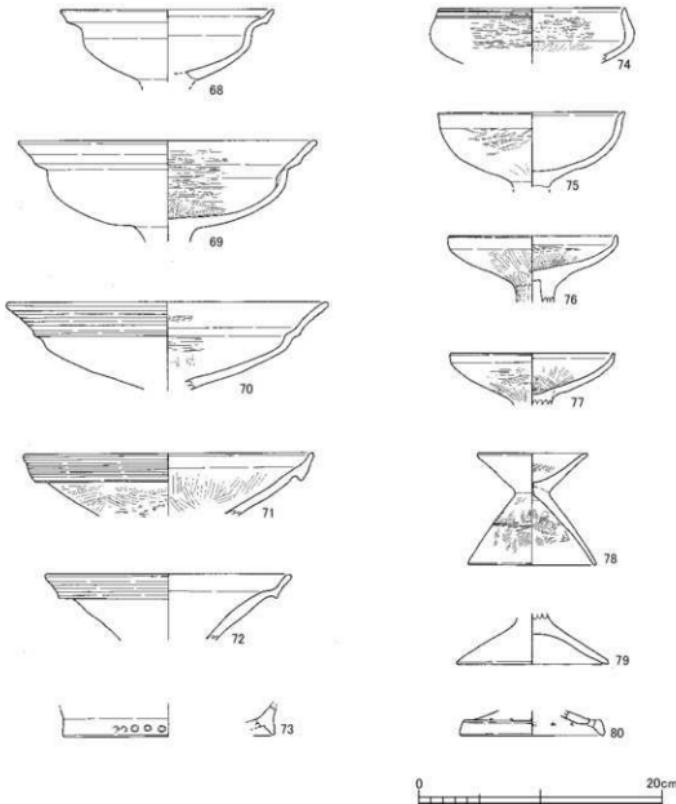
20、23は長頭壺である。20は口縁部外面に逆「U」字状の彫りこみ、底部内面に円形の窪み、外面には「十」字の薄い線刻がある。23は長い頭部に口縁端部を拡張し、太い擬回線を施す。

24~47は甕である。出土した甕の大半は複合口縁の端面に擬回線を施すもの(34~47)であるが、中には擬回線を施さない個体(29~34)もある。調整は外面をハケ、内面をケズリで仕上げるのを基本とするが、32、43は外面にわずかだがタタキが残る。また、35・41・42は直立気味に立ち上がる口縁をもち、端部を薄く仕上げたり(35・41)、肩部付近に貝殻文と直線文(35・37)、口縁部に多条の擬回線を施す(42)など、山陰系の特徴を持つ。これらの複合口縁の甕の他に、くの字状の頭部に口縁端部を拡張するもの(24)、跳ね上げ口縁のもの(25・26)、単純口縁で終わるもの(27・28)がある。28は内外面ともにハケ調整で仕上げる。出土したほとんどの甕に煤や焦げ跡が良好な状態で残っている。これらの甕はほとんどが外反気味の複合口縁と倒卵形の体部に小さな底部を持つことから、庄内併行期に位置づけられる。



0 20cm

第11図 出土土器 (7)



第12図 出土土器(8)

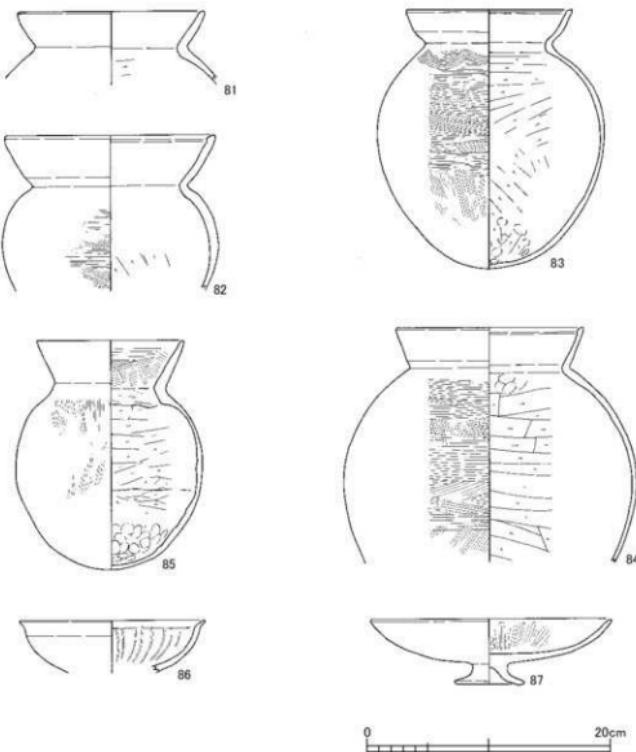
48～51は鉢である。48は口縁端面に明瞭な擬回線が残り、内外面ともにヨコハケの後ミガキを施す。49も内外面にミガキを施す。脚がつく可能性がある。51は外面の摩滅が激しく、二次焼成を受け煤が全体に付着する。

52～58は有孔土器であり、58の甕以外はすべて鉢である。煤の付着は一切見受けられない。倒卵形の甕の下半部に似た器形のものと(52～55)、直線的に外側上方へ伸びるもの(56・57)の2タイプがある。

59～65は鉢であり、内溝するものと(59・63・64)と外に大きくひらくもの(60～62)とがある。64は台付の鉢である。65は複合口縁であるが擬回線はない。

66～67は低脚の脚部である。

68～70は高坏であり、いずれも複合口縁である。69は内面にミガキを施す。70は口縁部に擬回線をもつ。



第13図 出土土器 (9)

71～72は器台である。どちらも複合口縁で口縁部に擬回線を施す。

73は複合土器の破片の可能性がある。竹管文を施す。

74～75は椭状の高坏である。74は口縁に2条の間線文、内面下部に放射状のミガキを施す。75は外面上にミガキを施す。

76～78は小型器台である。浅い皿形の受部のもの(76・77)とX型のもの(78)がある。78は内外ともハケ調整を行い、受部、脚部とも端部はヨコナデで丸くおさめる。受部の中心に焼成前穿孔がある。

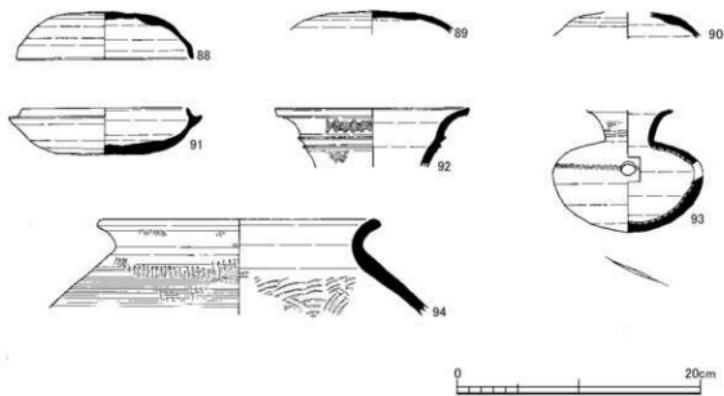
79～80は脚部である。80は端部に円孔の列が残る。

土器器 (第13図・写真図版22)

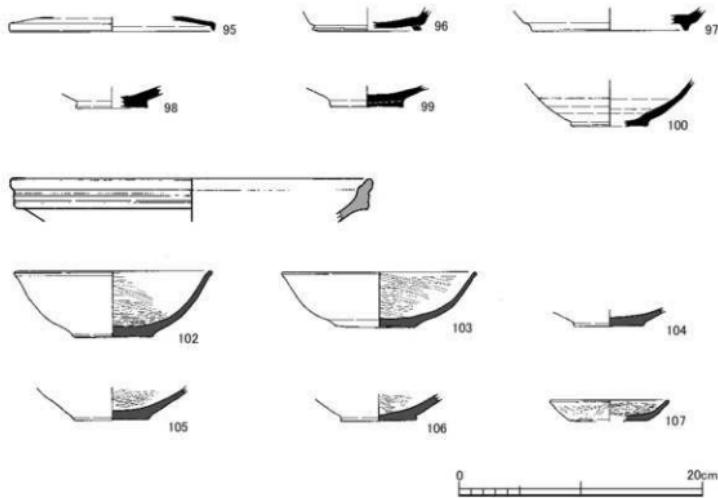
81～84は布留系の壺である。82～84は口縁端部を内側に肥厚させる。83は肩部付近に波状文を施す。

85は直口壺である。丸底で83、85は内面底部にユビオサエが多く残る。

86・87は高坏である。86は口縁端部を短く外反し端部を丸くおさめる。坏内面に暗文が残る。



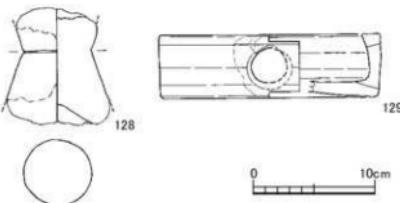
第14図 出土土器 (10)



第15図 出土土器 (11)



第16図 出土土器 (12)



第17図 出土土器 (13)

87は低脚杯で内面全体に放射状のミガキを施す。近年、古墳からの出土例から蓋との見解もある。
須恵器（第14～15図・写真図版23）

古墳時代の須恵器は、壺（92）・甌（93）の5世紀末～6世紀初めの一群と、杯蓋（88～90）・杯身（91）・甌（94）の7世紀初めの一群が出土している。このうち杯蓋とした90は杯身の可能性をもつものである。

奈良時代の須恵器は杯蓋（95）、杯B（96・97）が該当し、8世紀後半に比定できる。

平安時代の須恵器は甌（98～100）が出土している。いずれも底部の切り離しは回転糸切りである。平高台をもつ98・99と平底に近い100があり、前者は11世紀代、後者が12世紀前半のものと考えられる。黒色土器（第15図・写真図版24）

内黒の黒色土器Aの杯（102～106）が出土している。内面はミガキ調整、外面が回転ナデ調整を施す。いずれも回転糸切りによる切り離しの底部をもつタイプである。107は両黒の黒色土器Bの皿と見えられる。外面底部を含め内外に丁寧なミガキが施されている。黒色土器杯・皿の年代については11世紀後半と考えているが、須恵器甌を模倣したタイプと理解するならば13世紀代の可能性も考えられる。いずれにしても併出する資料に乏しく、今後の良好な出土事例を待ちたい。

備前焼（第15図・写真図版23）

101 口縁部に2条の沈線を巡らした備前焼鉢（101）である。全体に摩滅が著しく遺存状況は悪い。口縁端部内面の特徴から17世紀前半のものと考えられる。

瓦質土器（第16図・写真図版25）

土管と考えられる108が出土している。

施釉陶器（第16図・写真図版25）

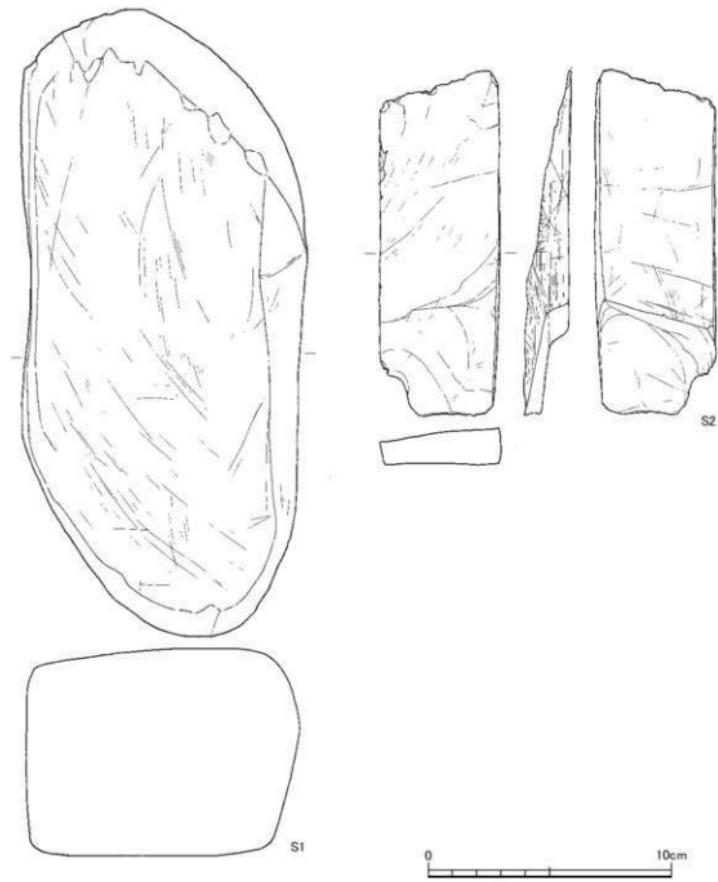
体部下半が無釉で、高台部を削り出した肥前焼陶器皿（109）が出土している。口縁端部には鉄釉が塗布されている。17世紀前半のものと考えられる。

磁 器（第16図・写真図版25～27）

染付ないしは白磁の碗・鉢・小杯・皿・蓋・瓶が出土している。

染付碗は（110～112・114・116～118）がある。112は染付顔料に酸化コバルトを使用した明治期のものである。111・114は見込みに針目跡がある。117は蛇ノ目釉剥ぎの碗である。118は広東形碗で、外側には海浜風景が描かれる。

鉢（113）は型打ち成形の八角形の角鉢である。底部は蛇ノ目凹形高台である。115は小杯である。



第18図 出土石製品

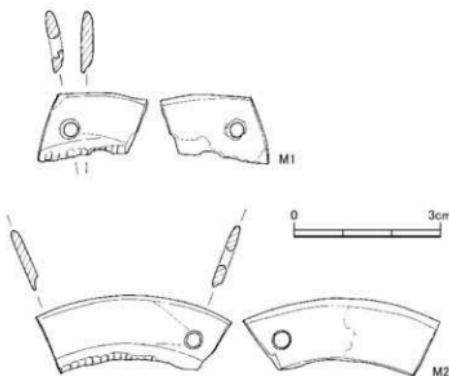
124は蛇ノ目軸剥ぎの鉢である。外面には染付と鉄絵が施される。

皿（119～123）がある。119は型打ち成形の八角形皿である、見込みには刷文が描かれる。海浜風景が描かれた121は見込みに針目跡を残し、円錐ピンが接着している。122・123は蛇ノ目凹形高台の皿である。122の見込みには山水文が描かれる。

125は型紙刷りによる絵柄をもつ蓋である。126は瓶である。内面と蓋付は無釉で、蓋付には砂が付着する。127は仏飯具である。

窯道具（第17図・写真図版25）

トチン（128）とサヤ（129）がある。129のサヤには糸切り痕が残る。



第19図 破鏡

石製品（第18図・写真図版28）

砥石が出土している。S1は自然石を利用した大型の砥石であり、4面とも使用されている。S2は剥離した粘板岩を砥石として利用している。

破鏡（第19図・写真図版29）

土器と同じ場所から破鏡（M1・M2）が2点出土している。いずれも鏡の縁から外区の部分を利用したものである。M1は、長さ2.2cm、幅1.3cm、厚さが0.25cmを測る。割れ口の一部は成形のために研磨されている。穿孔が一ヶ所あり、両側から穴が穿たれる。穴の直径は鏡背側で0.5cm、鏡面側で0.4cmと若干大きさが違う。

M2は、長さ4.1cm、幅1.3cm、厚さが0.25cmを測る。割れ口の一部は成形のために研磨されている。穿孔が一ヶ所あり、両側から穴が穿たれる。穴の直径は0.4cmである。M1・M2とともに鏡背面の内側には、鏡の外区に描かれていたと考えられる櫛齒文の一部が残る。

第3節 兵庫県豊岡市出石町の鳥居遺跡から出土した
鏡片の鉛同位体比

第3章 第3節は
公開していません

第4章 総括

工事中に、川底に堆積した砂層から遺物が出土したことにより調査が行われたため、通常の発掘調査とは異なり、包含層から遺物を採取する調査となった。出土遺物は遺構に伴わないと一括性はないが、完形の遺物が多く、良好な資料と言える。

出土した遺物の時期は、①弥生中期以前②庄内併行期③5世紀末～6世紀初め④7世紀初め⑤8世紀後半⑥11世紀～12世紀前半⑦17世紀⑧18世紀末～19世紀前半に分けられる。

庄内併行期の土器は主に丹後系で複合口縁をもつ在地の土器群で構成され、その中に少数の丹波系の在地のくの字口縁の甕⁽²⁾や山陰系の特徴を持つ土器が含まれている。山陰地方をはじめ日本海沿岸ルートでの影響があったことが伺える資料であり、これまでの但馬地域での様相と一致している。また、從来から但馬のタタキ甕の受容が少ないと指摘⁽¹⁾されているように、鳥居遺跡でもタタキ甕の出土は極わずかであり、タタキ甕が但馬では盛行することなく布留期に移行していったと推定される。

これら出土遺物のほとんどはローリングを受けておらず、特に②時期の甕には煤や焦げが良好に残存している。そのため、これら遺物は上流から流されて来たものではなく、出土場所近辺に廃棄あるいは意図的に置かれたものと考えられる。しかし、鳥居遺跡周辺では、川へ土器を廃棄したと考えられる集落は確認されていない。鳥居遺跡と似た性格の遺跡として、鳥居遺跡より1.6km北にある多田地小谷遺跡が上げられる。この遺跡では、布留期の遺物が河川から大量に出土している。出土場所や状況など鳥居遺跡と共通する点が多い。このことから、庄内併行期から布留期に亘り、川に土器を廃棄するもしくは祭祀などで意図的に土器を川に置く習慣があったと言える。ただ、廃棄もしくは配置された土器が日常使用する土器であるため、この行為の性格は不明である。土器と同じ場所から破鏡が2点出土している。分析結果から青銅材料は中国華北産であることが判明している。第3章第3節では青銅鏡以外の可能性も否定できないとされているが、分析後、再度肉眼観察を行った結果、櫛齒文が確認されたことから青銅鏡であるとした。青銅鏡が出土した可能性として、近隣の古墳から流出した可能性が考えられる。鳥居橋南西側の出石川に面する尾根に、中世の山城である鳥居城がある。この同じ尾根付近に未知の古墳または弥生墳墓が存在し、破鏡の流出源となった可能性も否定できない。

染付の一組は、同出石町で肥前焼系染付磁器の写しを生産した古出石焼⁽³⁾の範疇で捉えることが妥当と考えられる。出土した磁器の年代は肥前焼磁器の編年には従えば、およそV期におさまり18世紀末～19世紀前半に比定される。古出石焼の磁器焼成は18世紀末から始まったと考えられており、時代的な矛盾はない。ただ、絵付け顔料に酸化コバルトを用いた112の碗、型紙刷りの125の蓋は明治期まで降るものと理解できる。絵付けの内容についても、119の扇文、120～121の山水ないしは海浜風景などのモチーフは伝世資料をはじめ奥田窯跡・桜谷窯跡などの表掲資料中に確認することができる。また、121の皿には円錐ピンが熔着していることや、サヤ・トチンといった窯道具が一緒に出土していることも、今回出土した染付磁器が古出石焼の製品であることを補強している。

〔註〕

(1) 谷本進2001 「但馬における庄内併行期の土器の様相」『北近畿の考古学』両丹考古学研究会・但馬考古学研究会

(2) 高野陽子2009 「弥生後期土器の地城色とその系統」『京都府埋蔵文化財情報』第108号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

(3) 森内秀造・山口久喜1998 『山口コレクション—古出石焼—』収蔵資料目録6 兵庫県立歴史博物館

遺物観察表 1

物番号	回収番号	不真因樹 等号	種別	詳細	法量 (cm)						種	参考				
					口幅	底幅	高さ	幅	厚み	周長						
01	5	11	衛生土器	木漆	-	(9.7)	-	-	-	-	-	内面: 体形-外+直腹又+浅次文 外面: 体形-ハラ 把手部分: 塗土: 長毛(赤)				
02	5	11	衛生土器	漆	-	(11.8)	-	-	-	-	-	内面: 直腹文+斜腹下文 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-平形				
03	5	11	衛生土器	漆	(25.9)	(10.3)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 体形-ハラ 把手: ナラ? 勝土: 長毛, 短毛(赤)				
04	5	11	衛生土器	漆	(25.0)	(14.4)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 体形-ハラ 把手: ナラ? 勝土: 長毛, 短毛(赤)				
05	6	11	衛生土器	漆	13.3	(10.6)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
06	6	11	衛生土器	漆	21.4	(8.25)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
07	6	12	衛生土器	漆	(26.0)	(9.2)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
08	6	12	衛生土器	漆	(16.1)	(5.1)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
09	6	12	衛生土器	漆	(26.4)	(9.1)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
10	6	11	衛生土器	漆	15.4	(8.1)	2.8	-	-	-	18.85	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
11	6	11	衛生土器	漆器	-	(8.6)	6.6	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
12	6	11	衛生土器	漆器	-	(11.6)	4.4	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
13	6	11	衛生土器	漆器	-	(28.0)	8.6	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
14	6	12	衛生土器	漆器	-	(9.65)	6.75	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
15	6	12	衛生土器	紙糊	-	(3.0)	4.7	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
16	7	12	衛生土器	高口器	(11.1)	(11.22)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
17	7	12	衛生土器	漆	-	(13.3)	3.1	-	-	-	14.8	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
18	7	12	衛生土器	漆	10.6	14.3	2.2	-	-	-	11.6	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
19	7	13	衛生土器	粗糊器	12.3	23.1	0.6	-	-	-	14.8	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
20	7	13	衛生土器	粗糊器	11.7	25.25	3.9	-	-	-	16.4	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
21	7	13	衛生土器	粗糊器	(32.2)	28.9	0.6	-	-	-	19.04	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
22	7	13	衛生土器	漆	-	(26.2)	8.2	-	-	-	-	22.0	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)	
23	8	12	衛生土器	長糊器	(36.2)	30.35	5.05	-	-	-	11.8	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
24	8	14	衛生土器	漆	(16.0)	(3.0)	-	-	-	-	-	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)				
25	8	14	衛生土器	漆	(32.0)	(14.4)	-	-	-	-	13.45	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
26	8	14	衛生土器	漆	(19.2)	(9.6)	-	-	-	-	19.85	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
27	8	14	衛生土器	漆	(16.05)	(13.7)	-	-	-	-	14.2	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
28	8	14	衛生土器	漆	(16.2)	20.2	3.2	-	-	-	18.4	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
29	8	14	衛生土器	漆	18.2	13.6	2.1	-	-	-	13.1	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		
30	8	15	衛生土器	漆	10.9	10.1	3.9	-	-	-	15.7	-	○	内面: 体形-丸形 外面: 漆器文+斜腹下文 把手: 体形-丸形 把手: 体形-ハラ 把手: 体形-丸形+直腹浮文 (窄管)		

遺物観察表 2

物名番号	回収番号	不真面目番号	種別	詳細	法量 (cm)							性別	考察
					口幅	裏幅	高さ	厚さ	頭	身分	腰		
31	8	15	衛生土器	便	(15.7)	13.9	2.8	-	-	-	17.3	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
32	8	15	衛生土器	便	(16.0)	13.1	1.8	-	-	-	14.2	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に大きな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
33	8	15	衛生土器	便	13.8	13.8	2.3	-	-	-	14.7	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
34	8	15	衛生土器	便	(19.0)	18.0	-	-	-	-	(23.0)	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に大きな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
35	9	15	衛生土器	便	(13.6)	(13.0)	-	-	-	-	(13.0)	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
36	9	16	衛生土器	便	(16.7)	16.1	-	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
37	9	16	衛生土器	便	-	(2.45)	-	-	-	-	-	-	- 既往文+明瞭文 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
38	9	16	衛生土器	便	13.6	13.5	1.75	-	-	-	13.3	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+上部底面の側面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
39	9	16	衛生土器	便	13.6	13.5	2.2	-	-	-	12.8	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
40	9	16	衛生土器	便	(15.0)	16.75	2.5	-	-	-	15.35	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+上部底面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
41	9	16	衛生土器	便	14.7	13.6	2.4	-	-	-	15.35	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
42	9	17	衛生土器	便	15.3	28.8	2.9	-	-	-	16.6	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
43	9	17	衛生土器	便	15.8	23.05	4.85	-	-	-	17.7	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+底部上部+下サハサ
44	9	17	衛生土器	便	17.5	23.45	2.35	-	-	-	18.3	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
45	9	17	衛生土器	便	(17.0)	23.1	3.7	-	-	-	(17.25)	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+上部底面 背面+ケヤク+上部+右+アルマ
46	10	17	衛生土器	便	17.8	25.8	2.2	-	-	-	19.9	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
47	10	17	衛生土器	便	17.5	27.3	3.4	-	-	-	20.4	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
48	10	18	衛生土器	糞	(28.0)	(13.0)	-	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に大きな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
49	10	18	衛生土器	糞	(17.0)	(14.0)	-	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に大きな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
50	10	18	衛生土器	糞	(15.9)	18.0	8.0	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に大きな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
51	10	18	衛生土器	糞	16.1	12.25	7.35	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に大きな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
52	11	19	衛生土器	有孔土器	11.8 ~ 11.4	11.5	1.0	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
53	11	19	衛生土器	有孔土器	13.8	13.65	1.3	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
54	11	19	衛生土器	有孔土器	(18.2)	(11.25)	0.6	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
55	11	19	衛生土器	有孔土器	1.0	8.0	0.5	-	-	-	-	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク
56	11	18	衛生土器	有孔土器	3.8	8.0	2.9	-	-	-	14.1	-	○ から山緑+ミカナゲ 側面の内側に小さな凹面 背面+ハサウエ 輪郭+ケヤク

遺物観察表 3

物名番号	回収番号	不真面目 番号	種別	詳細	法量 (cm)						性 別	年 齢	備 考		
					口幅	裏幅	高さ	厚さ	縦	横					
57	11	18	陶生土器	有孔土器	(16.2)	(15.0)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	口部に山形に小さな凹部 裏部に平底面 表面: ハケ 内部: 板ナメ
58	11	19	陶生土器	有孔土器	9.4	8.1	2.2	-	-	-	-	12.4	-	-	口部: 手工作業の跡 裏部: 手作業の跡 表面: ハケ 内部: ハケ
59	11	19	陶生土器	縫	(14.0)	(12.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	内部: 山形にコロナリ 表面: ハケ
60	11	20	陶生土器	縫	(16.2)	(9.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	内部: 山形に凹部少し外延 表面: ハケ 内部: 板ナメ
61	11	20	陶生土器	縫	(12.2)	(8.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	横的: 頭(体)側で山縁面に接せり 縫部に平底面 内部: ハケ+板型板ナメ
62	11	20	陶生土器	縫	(17.4)	(10.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	横的: 頭(体)側で山縁面に接せり 縫部に平底面をつ 内部: ハケ+板ナメ
63	11	20	陶生土器	縫	(11.0)	(8.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	内部: 山形+コロナリ 表面: ハケ+コロナリ 表面: ハケ+ハケ 内部: 山形+ハケ+板型板ナメ
64	11	19	陶生土器	台付縫	(16.1)	(11.0)	6.5	-	-	-	-	-	-	-	頭合: 山形+コロナリ 表面: ハケ 内部: ハケ+コロナリ 内部: 山形+ハケ+板型板ナメ 内部: ハケ
65	11	19	陶生土器	縫	12.6	6.95	2.8	-	-	-	-	-	-	-	頭合: 山形+コロナリ 表面: ハケ 内部: ハケ+コロナリ 内部: ハケ+板型板ナメ 内部: ハケ
66	11	20	陶生土器	縫	-	3.7	4.2	-	-	-	-	-	-	-	内部: ハケ 内部: ハケ+板型板ナメ 内部: ハケ
67	11	20	陶生土器	縫	-	4.8	4.8	-	-	-	-	-	-	-	内部: ハケ 内部: ハケ+板型板ナメ 内部: ハケ
68	12	20	陶生土器	高脚	(17.0)	5.7	-	-	-	-	-	-	-	-	頭合: 山形+コロナリ 表面: ハケ
69	12	21	陶生土器	高脚	(21.1)	(8.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	頭合: 山形+コロナリ 表面: ハケ 内部: ハケ
70	12	20	陶生土器	高脚	(26.0)	(7.2)	-	-	-	-	-	-	-	-	頭合: 山形+多孔の複合面 表面: ハケ+骨の外殻 内部: 説明不明 内部: ハケ
71	12	20	陶生土器	脚付	(21.0)	5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	頭合: 山形+多孔の複合面 表面: ハケ+骨の外殻 内部: ハケ
72	12	20	陶生土器	脚付	(28.0)	(3.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	頭合: 山形+多孔の複合面 表面: ハケ+骨の外殻
73	12	21	陶生土器	複合土器	-	(2.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	竹筒瓦
74	12	21	陶生土器	高脚	(15.2)	(1.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	内部: するり山縁面+斜面 表面: ハケ+骨の外殻 内部: 壁面: はくらむら 内部: ハケ 内部: ハケ
75	12	21	陶生土器	高脚	(15.2)	(6.1)	-	-	-	-	-	-	-	-	横: 一筋の小さなくぼみ上に山形の縫 表面: ハケ+コロナリ 内部: ハケ
76	12	21	陶生土器	小型脚台	13.6	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	横: 一筋の小さなくぼみ上に山形の縫 表面: ハケ+コロナリ 内部: ハケ
77	12	21	陶生土器	小型脚台	13.4	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	横: 一筋の小さなくぼみ上に山形の縫 表面: ハケ+コロナリ 内部: ハケ
78	12	21	陶生土器	小型脚台	9.0	9.0	(8.0)	-	-	-	-	-	-	-	文部省の登録 内部: 陶器の外殻 表面: ハケ+骨の外殻 内部: ハケ
79	12	21	陶生土器	縫	-	1.2	12.0	-	-	-	-	-	-	-	大口: 山縁面 内部: 説明不明 内部: ハケ
80	12	21	陶生土器	縫	-	(2.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	大口: 山縁面 表面: 板型板ナメ 内部: ハケ
81	13	22	土師器	縫	(15.3)	(6.0)	-	-	-	-	-	-	-	○	○: 内口: 内口にして少し内折しない山形の口 表面: 板型板ナメ 内部: ハケ
82	13	22	土師器	縫	(17.0)	(12.7)	-	-	-	-	-	22.3	-	○	○: 大口: 山縁面 表面: 板型板ナメ 内部: ハケ
83	13	22	土師器	縫	13.5	9.2	8.0	-	-	-	-	18.6	-	○	○: 口部: 内口にして少し内折しない山形の口 表面: 板型板ナメ 内部: ハケ
84	13	22	土師器	縫	(15.3)	(9.3)	-	-	-	-	-	(23.0)	-	-	○: 口部: 内口にして少し内折しない山形の口 表面: 板型板ナメ 内部: ハケ

遺物觀察表 4

物名番号	図版番号	不規則形 等級	種類	法量 (cm)						性別	年齢	備考		
				口幅	裏幅	高さ	厚さ	幅	深さ					
85	13	22	土師器	直口器	12.0	9.8	9.8	-	-	-	15.2	-	○二字に外れて上方に開ける山根 柱頭の全体 背面：全体ハリ 前面：口部は一ヶ所張り、柱頭カブチ下手に鉛錠穴版	
86	13	22	土師器	高柄	(13.4)	(13.5)	-	-	-	-	-	-	-	柱頭の内側中央に少し外れる山根 背面：全体ハリ 前面：鉛錠穴版
87	13	22	土師器	折脚所	19.5	5.4	5.7	-	-	-	-	-	-	柱頭部 背：外側に底に小さな脚 腹：全体ハリ 背面：鉛錠穴版 前面：土附
88	14	23	須恵器	井戸型	(16.0)	(16.0)	-	-	-	-	-	-	-	天井型開口・ラケヅ
89	14	23	須恵器	井戸型	-	(13.9)	-	-	-	-	-	-	-	天井型開口・ラケヅ
90	14	23	須恵器	井戸型?	-	(22.0)	-	-	-	-	-	-	-	天井型開口・ラケヅ
91	14	23	須恵器	折脚	(13.4)	(13.0)	-	-	-	-	-	-	-	直井型開口・ラケヅ
92	14	23	須恵器	直	(13.0)	(13.0)	-	-	-	-	-	-	-	直井型開口・直井ナガ
93	14	23	須恵器	縦	-	(18.0)	-	-	-	-	13.2	-	-	横井ナガ 長窓に「一」字のヘタ記号
94	14	23	須恵器	便	(23.1)	(17.0)	-	-	-	-	-	-	-	体部：平行テキストヨウキヨ 直井ナガ
95	15	23	須恵器	井戸	(16.7)	(12.0)	-	-	-	-	-	-	-	直井ナゲ
96	15	23	須恵器	直	-	-	(9.0)	-	-	-	-	-	-	斜直
97	15	23	須恵器	直	-	(1.85)	(13.6)	-	-	-	-	-	-	斜直
98	15	23	須恵器	縦	-	(0.7)	(7.0)	-	-	-	-	-	-	直井型開口・直井
99	15	23	須恵器	縦	-	(1.7)	(5.0)	-	-	-	-	-	-	直井型開口・直井
100	15	23	須恵器	縦	-	(0.8)	(6.5)	-	-	-	-	-	-	直井型開口・直井
101	15	23	須恵器	縦脚	(26.0)	(3.55)	-	-	-	-	-	-	-	摩訶ナシ
102	15	24	黑色土器	直	(16.0)	(15.45)	0.6	-	-	-	-	-	-	杯 A 内墨ニギリ調整 弧背凹輪ナガ
103	15	24	黑色土器	直	(15.0)	5.5	6.5	-	-	-	-	-	-	杯 A 内墨ニギリ調整 弧背凹輪ナガ
104	15	24	黑色土器	直	-	(1.0)	3.7	-	-	-	-	-	-	杯 A 内墨ニギリ調整 弧背凹輪ナガ
105	15	24	黑色土器	直	-	2.7	6.0	-	-	-	-	-	-	杯 A 内墨ニギリ調整 弧背凹輪ナガ
106	15	24	黑色土器	直	-	2.15	6.0	-	-	-	-	-	-	杯 A 内墨ニギリ調整 弧背凹輪ナガ
107	15	24	黑色土器	直	(0.5)	(1.75)	0.6	-	-	-	-	-	-	直筒 全端サキ
108	16	25	灰質土器	土管?	(28.0)	(6.0)	-	-	-	-	-	-	-	圓錐 粗糙 楊柳形 四輪ナガ 高台側の底、外壁側面下半部分 山根周辺無痕跡
109	16	25	肥前器	直	(10.1)	3.2	(1.1)	-	-	-	-	-	-	-
110	16	26	染付磁器	直	(0.8)	4.2	(3.50)	-	-	-	-	-	-	丹波要文(前縁) 足見み紋アザメ形
111	16	26	染付磁器	直	(0.8)	5.3	(4.6)	-	-	-	-	-	-	細文鏡 外面要文 文足・斜口鏡・垂行繩
112	16	26	染付磁器	直	(10.0)	(1.0)	-	-	-	-	-	-	-	細文鏡 外面要文 細村口鏡(ハリ)
113	16	26	染付磁器	直	(11.0)	(1.3)	(2.0)	-	-	-	-	-	-	八角口鏡 空切枝葉 外面要文 內面要文 高台環状施釉 高台環状(切枝)口鏡
114	16	26	染付磁器	直	-	(2.0)	(1.0)	-	-	-	-	-	-	高台環状(切枝)文 足込西二脚式 斜口鏡(ハリ鏡) 高台環 状施釉
115	16	26	染付磁器	小直	-	(2.80)	(1.0)	-	-	-	-	-	-	内面要文 斜口鏡
116	16	26	染付磁器	直	-	(0.3)	4.45	-	-	-	-	-	-	盤成不良 両面?文 染付斜口鏡
117	16	26	染付磁器?	直	-	(1.0)	(1.0)	-	-	-	-	-	-	盤成不良 高台環状施釉 足込小枕・直口鏡
118	16	26	染付磁器	直	-	(1.7)	(0.8)	-	-	-	-	-	-	伝承品 黒海貝灰施釉(松・鶴脚)口鏡
119	16	27	染付磁器	角直	(0.75)	(2.0)	2.85	-	-	-	-	-	-	空切枝葉 八角口鏡 斜口鏡無痕跡 内面是口(菊)・延文
120	16	27	染付磁器	小直	(0.75)	2.1	(0.1)	-	-	-	-	-	-	山形(千利四)乳頭口+通山口 壱口 斜口鏡
121	16	27	染付磁器	直	-	(2.0)	(0.2)	-	-	-	-	-	-	海螺(明鏡)伴(通山口) 斜口鏡無痕跡 直口鏡
122	16	27	染付磁器	直	(12.0)	3.7	(8.0)	-	-	-	-	-	-	山形(千利四)乳頭口+通山口+通山口(一箇)山水(高台内蔵)口鏡
123	16	27	染付磁器?	直	-	(1.0)	(2.0)	-	-	-	-	-	-	盤成不良 足込斜口鏡(中面所)・二重口鏡(透鏡) 高台 環状(中面所)
124	16	27	染付磁器	直	-	(0.9)	(0.6)	-	-	-	-	-	-	空切枝葉 八角口鏡 斜口鏡無痕跡
125	16	27	染付磁器	直	(11.7)	3.0	-	-	-	-	-	-	-	空切枝葉
126	16	27	染付磁器?	直	-	(1.1)	(0.6)	-	-	-	-	-	-	Pinch無痕 高台環状施釉(砂口)
127	16	25	染付磁器	長脚圓	-	(3.75)	(4.75)	-	-	-	-	-	-	高台環状施釉
128	17	25	黒漆器	トラン	-	-	-	8.65	最大幅 6.55 脚高 3.25 ~3.6	-	-	-	-	上脚器 黒面火利
129	17	25	黒漆器	サト	(18.0)	(5.2)	(17.0)	-	-	-	-	-	-	上脚器 黒面火利
S1	18	28	白鶴器	瓶	-	-	-	-	14.1	4.97	1.85	-	-	106.7
S2	18	28	白鶴器	瓶	-	-	-	-	25.6	11.75	9.45	-	-	4200
M1	19	29	金葉器	鏡圓	-	-	-	-	2.2	1.3	0.25	-	-	穿孔1箇所
M2	19	29	金葉器	鏡圓	-	-	-	-	1.1	1.3	0.25	-	-	穿孔1箇所

写 真 図 版

写真図版1



鳥居遺跡遠景（北から）



鳥居遺跡遠景（東から）



調査区遠景（北東から）



調査区近景（南東から）

写真図版 3



調査区近景（北西から）



調査状況（東から）



調査状況（北西から）



土器 5・42・47 出土状況（北東から）

写真図版 5



土器 42 出土状況
(北東から)



土器 42 出土状況
(北東から)



土器 5・47 出土状況
(南東から)



土器 47 出土状況
(北東から)



土器 11 出土状況



土器 16 出土状況

写真図版 7



土器 22 出土状況
(北東から)



土器 30 出土状況
(南西から)



土器 33 出土状況
(南東から)



土器 38 出土状況
(北東から)



土器出土状況



土器 52 出土状況
(南東から)

写真図版 9



土器 48・60・63
出土状況



土器出土状況
(北西から)



現地説明会



現地説明会





出土土器 (1)



出土土器 (2)



19

20



21

22



24



26



25



27



29



28

出土土器 (4)



30



31



32



34



33



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



49



50



48



51



56



57



52



53



54



55



56



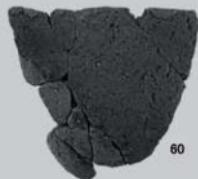
57



65



64



60



61



63



62



66



67



68



70



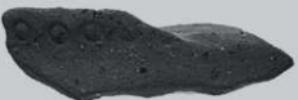
71



72



69



73



74



80



75



79



76



77



78



81



82



83



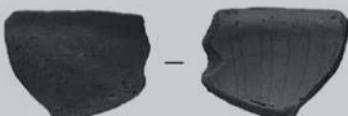
84



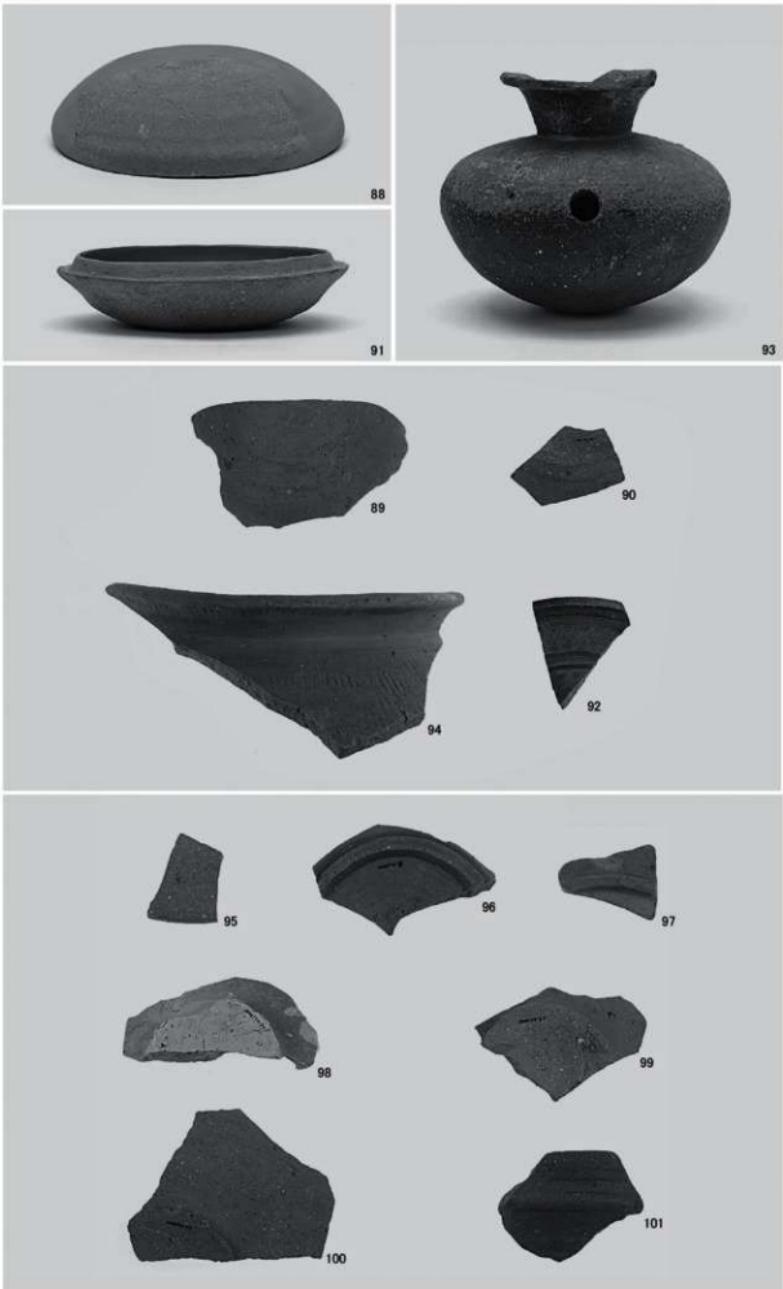
85



86



出土土器 (12)



出土土器 (13)



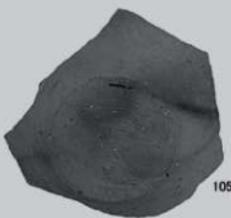
104



107



106



105



104



107



106



105

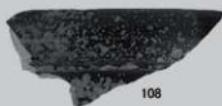


102



103

出土土器 (14)



108



129



109



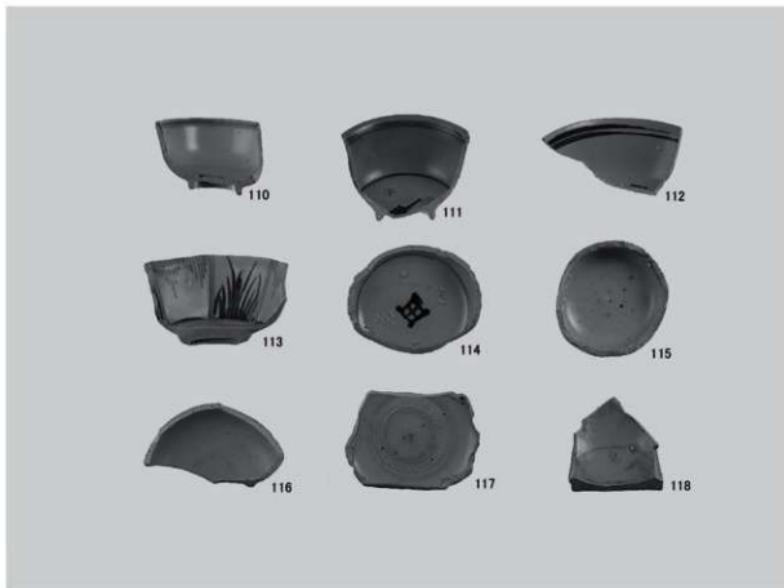
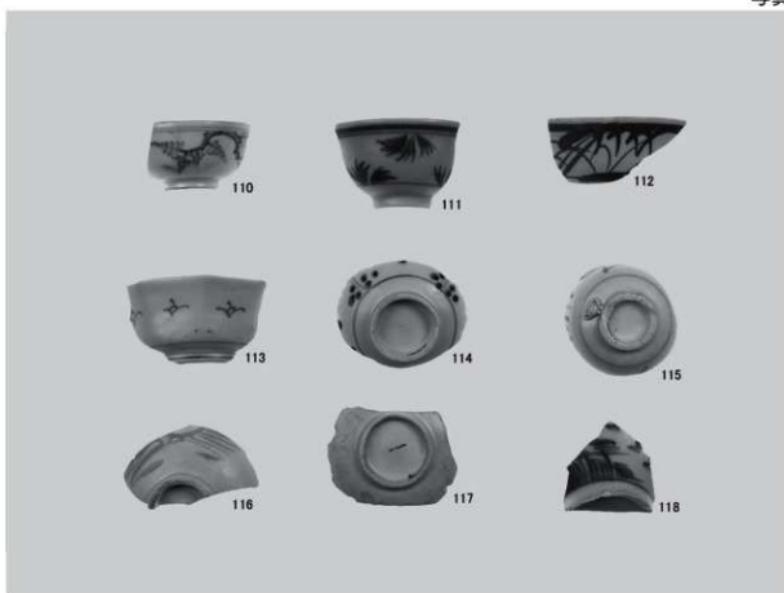
128



127

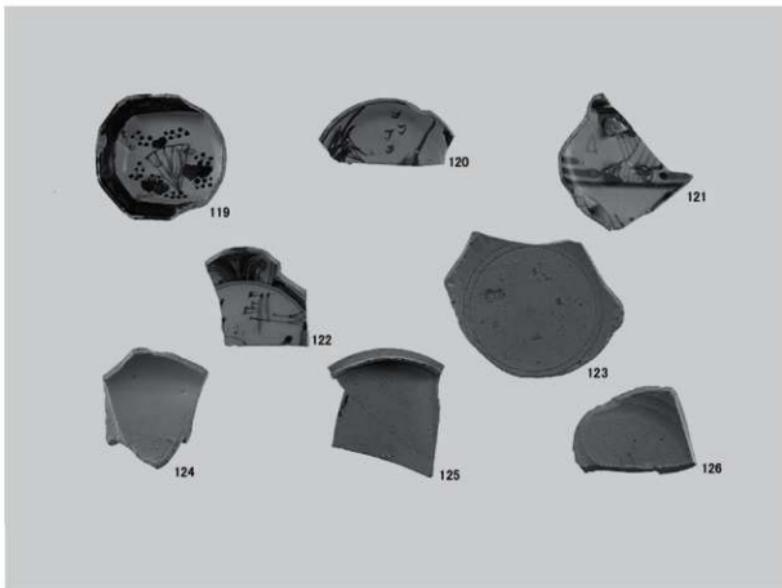


出土土器 (15)



出土土器 (16)

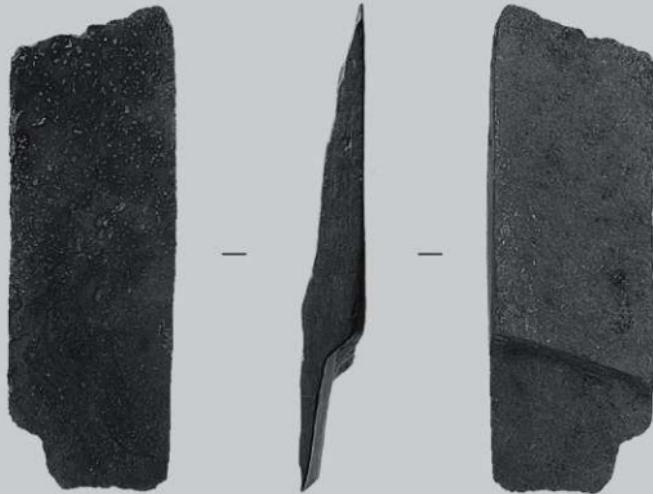
写真図版 27



出土土器 (17)

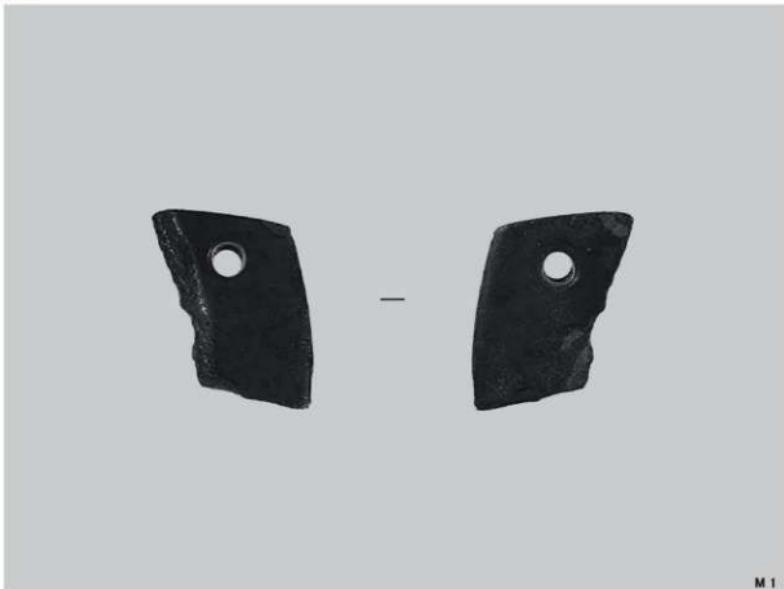


S1



S2

出土石製品



M 1



破 鏡

M 2

報告書抄録

ふりがな	とりい							
書名	鳥居遺跡							
副書名	円山川激甚災害特別緊急事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第423冊							
編著者名	小川弦太、長濱誠司、村上泰樹、杉村明美							
編集機関	兵庫県立考古博物館							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号							
発行年月日	平成24(2012)年3月16日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とりい 鳥居遺跡	兵庫県 豊岡市 出石町 鳥居	28561	620200	35度 28分 51秒	134度 51分 35秒	2007.2.28 ~ 2007.3.7	150 m ²	円山川 激甚災害 特別緊急 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鳥居遺跡	散布地	弥生～古墳 古代・中世 近世	なし	弥生土器、土師器、 須恵器、陶磁器、 出石焼、青銅鏡（破片）		青銅鏡の破片が2点 出土した。		

要約
豊岡市出石町鳥居における出石川現河床において、青銅鏡の破片および完成品を含む多量の土器が出土した。遺構の検出はできず遺物の一括性は把握できない。遺物の年代は多岐にわたる。遺存状態が良いためこの地に投棄されたものと考えられる。青銅鏡の破片は近隣の古墳から流出したとも考えられるが、実態は不明である。

兵庫県文化財調査報告 第423冊

豊岡市出石町

鳥居遺跡

—円山川激甚災害特別緊急事業に伴う発掘調査報告書—

平成24(2012)年3月16日発行

編集 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL 079-437-5589

発行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1

印刷 梶岸本印刷所
